

令和6年度 江戸川区立小松川第二中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

|             |   |  |                            |   |
|-------------|---|--|----------------------------|---|
| 学校教育目標      | 東京都及び江戸川区教育委員会の教育目標並びに地域社会や生徒の実態を踏まえ、人権尊重の精神を基盤とし、我が国と郷土への豊かな愛情をもち、伝統と文化を尊重し、公共の精神を尊重できる、心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成を目指す |  | 目指す学校像<br>目指す生徒像<br>目指す教師像 | ・生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校・暴力、いじめ、体罰がなく、人権が守られ生徒が安心して通える学校・生徒一人一人を大切に、個性や得意な面を伸ばす学校・苦手なことにも挑戦でき、その気持ちを伝える風土をもつ学校。<br>・「思いやりのある、心豊かな生徒」 ・「進んで学び、考えて行動する生徒」 ・「規律を守り、責任を果たす生徒」 ・「心身を鍛え、たくましい生徒」<br>・生徒に愛情をもって接することができる教師・服務の厳正に努め、組織の一員として職務を遂行する教師・生徒を自立させるために尽力し、生徒の成長する姿に喜びを感じる教師・生徒と共に活動し、生徒に範を示すことのできる教師 |
| 前年度までの本校の現状 | 成果  | ・学力向上の取組<br>・学校図書館蔵書量の増加と、それを活用した朝読書の習慣化<br>・いじめの実態把握と解消に向けた取組<br>・学校情報の発信 | 課題                         | ・生徒の自己肯定感を高めるための授業展開<br>・生活とつながった、楽しめる体力向上の取組<br>・特別支援委員会の活用と個に応じた指導の充実<br>・わかりやすい指標を基にした学校関係者評価の充実   |

| 重点                   | 取組項目                        | 具体的な取組内容                                    | 数値目標                             | 達成度 |    | 「中間」自己（学校）評価(A～D) |   | 「中間」学校関係者評価(A～D)                                     |  | 「年度末」自己（学校）評価(A～D)                              |      | 「年度末」学校関係者評価(A～D) |      | 次年度に向けた改善案 |
|----------------------|-----------------------------|---|----------------------------------|-----|----|-------------------|---|--|--|---|------|-------------------|------|------------|
|                      |                             |   |                                  | 9月  | 2月 | 評価                | コメント  | 評価   | コメント   | 評価  | コメント | 評価                | コメント |            |
| 学力の向上                | ○授業改善の推進                    | ・「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の実施                 | ・都学力調査「できた」「わかった」90%             | B   |    | B                 | 全国学力学習状況調査において、国語は全国平均、数学は都平均と等しい。「わかった」が実感できる授業づくりが課題。     | B  | 自己肯定感の育成のためには、「わかった」が実感できる授業は急務。                 |   |      |                   |      |            |
|                      | ○学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得        | ・外部人材を活用した放課後学習教室                           | ・放課後学習教室を年100回実施                 | A   |    | A                 | 1学期終了時点で39%の達成率。間口を広げ、幅広い生徒が受講できるようにする。                     | A  | 幅広い生徒層に声をかけ、実施をすることで成果が上がっている。                   |   |      |                   |      |            |
|                      | ○読書科の更なる充実                  | ・朝読書・探究的な学習の推進<br>・探究過程の共有と高めあ              | ・朝読書年間21時間の確保<br>・学習成果物を全生徒が作成   |     | B  |                   | B   | 朝学習については毎朝実施し、読解力につながっている。学習成果物については、探究学習終了時の完成を目指す。 | B  | 生徒の読書欲に対する蔵書率が充足している。朝読書に限らない読書週間を。             |      |                   |      |            |
| 体力の向上                | ○運動意欲や基礎体力の向上               | ・体育の授業に基礎体カトレーニングを取り入れる。                    | ・体育の授業において、導入時の基礎体カトレーニング実施率80%。 | B   |    | B                 | 授業実施時の導入率は90%に及ぶ。成果については、全国体力調査の結果公表を待つ。                    | B  | 毎時間トレーニングに取り組む活動ができています。成果を受けて検討を行う。             |   |      |                   |      |            |
|                      | ○部活動の在り方検討                  | ・外部指導員を月に5回程度導入し、生徒の運動量を確保する。               | ・月5回の実施率90%                      | A   |    | A                 | 4か月間で48回の実施、1か月あたり12回となり、実施率を充足している。                        | A  | 外部指導員を活用することで、教員の働き方改革、生徒の資質向上につながる。             |   |      |                   |      |            |
| 教育の推進<br>共生社会の実現に向けた | ○特別支援教育の推進                  | ・配慮を要する生徒に対して、個に応じた組織的な対応を検討する校内委員会の充実      | ・毎月2回の校内委員会実施率90%                | B   |    | B                 | 7月末における実施率75%。スケジュール管理を徹底し、実施率の向上を図る。                       | B  | 校内委員会で組織的な検討を行う姿勢を続けて欲しい。スケジュール調整を綿密に行い、実施率の向上を。 |   |      |                   |      |            |
|                      | ○学びのユニバーサルデザインの推進           | ・焦点化、視覚化、共有化の視点に基づいた学習環境の整備                 | ・学習アンケートにおける環境満足度70%             | B   |    | B                 | 一人1台端末の活用が進み、視覚化・共有化を図ることができている。学習環境の整備について、充実させていく。        | B  | タブレットを活用して授業を進めることは望ましい。環境満足度の調査と向上を。            |   |      |                   |      |            |
|                      | ○校則・学用品の見直し                 | ・生徒、保護者、地域、教職員との話し合いの場をもち、検討を行う             | ・年1回の検討委員会実施                     |     | B  |                   | B   | 年間計画に生徒心得検討委員会を位置付け、生徒、保護者、地域、教職員による検討を計画している。       | B  | 生徒や地域の方、保護者を変えて生徒心得を検討することは望ましい。検討会の様子を報告して欲しい。 |      |                   |      |            |
| 不登校・いじめ対応の充実         | ○いじめ見逃しをなくす                 | ・いじめの早期発見・早期対応                              | ・いじめ解消率80%                       | B   |    | A                 | 7月末時点において、28件のいじめを発見するなど、いじめを見逃さない体制を強化している。解消率は53.6%。      | B  | いじめの認知については、昨年度より進んでいる。解消率の向上を。                  |   |      |                   |      |            |
|                      | ○エンカレッジルームの活用推進             | ・学校に行き渋りのある生徒、不登校生徒への別室登校機会の提供              | ・別室登校を希望した生徒の利用率80%              | A   |    | A                 | 校内別室利用登録者の利用は、77.8%。学び方の多様化を学校全体で許容し、楽しい学校づくりを目指す。          | A  | 不登校出現率が昨年度より減少しており、望ましい活動である。                    |   |      |                   |      |            |
|                      | ○hyper-QUの活用                | ・区実施に加え、学校独自実施の計2回の測定を通し、活動の検証を行う。          | ・「学級生活満足群」生徒数40%                 | A   |    | A                 | 学校生活満足群が、学校全体で56.2%。教職員、生徒から認められ、居心地のいい学級づくりを目指す。           | A  | 過ごしやすい学級を作ることは、学力の育成、心身の向上に直結する。                 |   |      |                   |      |            |
| 学校の現状<br>地域社会に開かれた   | ○自校の取組の積極的な発信               | ・学校だよりのホームページ公開、学年ごとの出来事のホームページ紹介           | ・【学校だよりの月1回】【学年ごとの紹介を週1回】達成率80%  | A   |    | A                 | 学校だよりを4月から毎月発行し、ホームページに掲載。学年だよりをほぼ毎週発行し、すべてホームページに掲載。       | A  | 学校だよりのデータ化を含めて、ホームページやツールを用いた情報発信ができています。        |   |      |                   |      |            |
|                      | ○学校関係者評価の充実                 | ・生徒、保護者、教職員・地域の三者からの学校関係者評価を実施、分析、公表        | ・回収率80%                          | B   |    | B                 | 保護者アンケートを11月に実施予定。本報告書を9月学校評議員会で協議し、12月にはアンケートの結果を含めて再協議する。 | B  | アンケートを丁寧に実施できている。回収率の向上と、内容の報告を。                 |   |      |                   |      |            |
| 教育の特色ある展開            | ○生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校 | ・ボランティア清掃を実施参加することで、地域の中の学校をきれいに保つ意識の醸成を図る。 | ・年1回の実施に際し、参加率20%を目標とする。         | B   |    | B                 | 12月の推進週間において、生徒会主催の清掃を実施予定。                                 | B  | 昨年度より学校周りの清掃活動を実施し始めた。参加率の向上を。                   |   |      |                   |      |            |
|                      |                             | ・小松川平井地区連合大運動会や小松川平井マラソン大会等の地域行事に参加者を募る。    | ・大運動会には25%、マラソン大会には10%の参加を目標とする。 | A   |    | A                 | 連合大運動会には選手を含め18.7%の参加率。1月のマラソン大会に向け、機運醸成を図る。                | A  | 地域からの要望に応じて、多くの生徒がボランティアに参加している。                 |   |      |                   |      |            |